

第4章 医師・歯科医師・薬剤師調査

1 医師

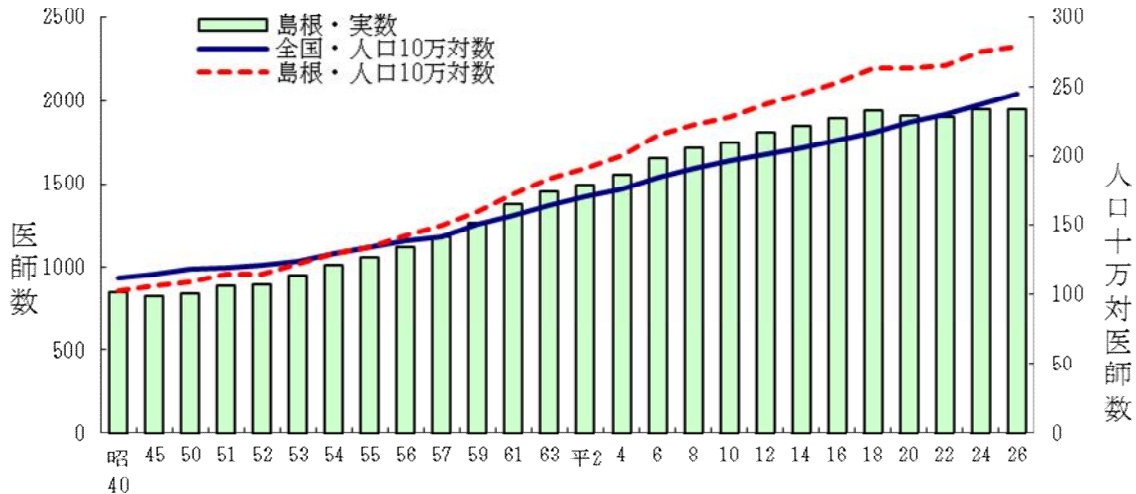
平成26年末現在の医師の届出数は1,947人で、前回調査時の平成24年から1人増加した。業務の種類別にみると、医療施設の従事者は1,848人で総数の94.9%を占め、前回に比べ5人減少し、構成割合も0.3%低下した。介護老人保健施設の従事者は29人で前回と比べ8人増、医療施設・介護老人保健施設以外の従事者は56人で前回に比べ8人減、その他の者は14人で6人増であった（表4-1）。

表4-1 業務の種類別にみた医師数及び構成割合

	医 師 数		増減数 (人)	構成割合(%)	
	平成26年	平成24年		平成26年	平成24年
総 数	1,947	1,946	1	100.0	100.0
医療施設の従事者	1,848	1,853	△ 5	94.9	95.2
病院の従事者	1,216	1,219	△ 3	62.5	62.6
病院（医育機関附属の病院を除く）の開設者 又は法人の代表者	30	26	4	1.5	1.3
病院（医育機関附属の病院を除く）の勤務者	851	858	△ 7	43.7	44.1
医育機関附属の病院の勤務者	335	335	0	17.2	17.2
臨床系の教官又は教員	192	199	△ 7	9.9	10.2
臨床系の教官又は教員以外の従事者（大学院生含む）	143	136	7	7.3	7.0
診療所の従事者	632	634	△ 2	32.5	32.6
診療所の開設者又は法人の代表者	452	462	△ 10	23.2	23.7
診療所の勤務者	180	172	8	9.2	8.8
介護老人保健施設の従事者	29	21	8	1.5	1.1
介護老人保健施設の開設者又は法人の代表者	7	3	4	0.4	0.2
介護老人保健施設の勤務者	22	18	4	1.1	0.9
医療施設・老人保健施設以外の従事者	56	64	△ 8	2.9	3.3
医育機関の臨床系以外の勤務者（大学院生含む）	30	26	4	1.5	1.3
医育機関以外の教育機関又は研究機関の勤務者	5	5	0	0.3	0.3
行政機関又は保健衛生施設の従事者	21	33	△ 12	1.1	1.7
行政機関の従事者	18	19	△ 1	0.9	1.0
行政機関を除く保健衛生施設の従事者	3	11	△ 8	0.2	0.6
産業医	0	3	△ 3	0.0	0.2
その他の者	14	8	6	0.7	0.4
その他の業務の従事者	2	1	1	0	0.1
無職の者	12	7	5	0.6	0.4
不 詳	-	-	-	-	-

平成26年の人口10万対医師数は279.3人で、前回の275.2人に比べて4.1人上昇した。人口10万対医師数は年々上昇傾向にあり、昭和54年までは全国を下回っていたが、その後は上回って推移している（図4-1）。

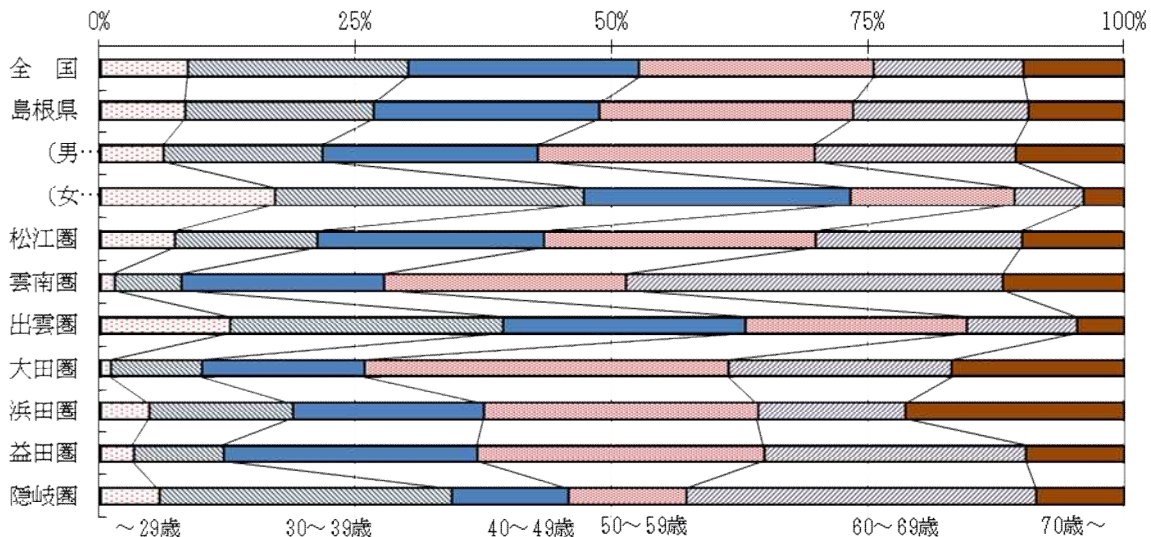
図4-1 医師数及び人口10万対医師数の年次推移



医師を年齢階級別に見ると、県全体では50歳代が24.8%、40歳代が22.0%と半数近くを占めている。全国の割合と比べると、30歳代の割合が低くなっている。男女別に見ると、男性は50歳代が最も多く26.9%で、ついで40歳代が21.0%を占める。女性は30歳代が最も多く30.2%で、ついで40歳代が26.0%を占める。

2次医療圏別に見ると、出雲圏だけが20歳代の占める割合が12.6%と1割を超えている。50歳以上が大田圏では74.2%、雲南圏では72.3%を占める（図4-2）。

図4-2 医師の年齢別割合



医師の年齢構成の年次推移を10年ごとにみると、昭和50年は45～49歳、昭和61年は25～29歳、平成8年は30～34歳、平成18年は45～49歳が最も多い年齢階級となっている。平成26年をみると最も多い年齢階級は50～54歳となる、また、前回調査の平成24年に比べ、50歳以上が増加している（図4-3）。

図 4-3 医師の年齢構成の年次推移

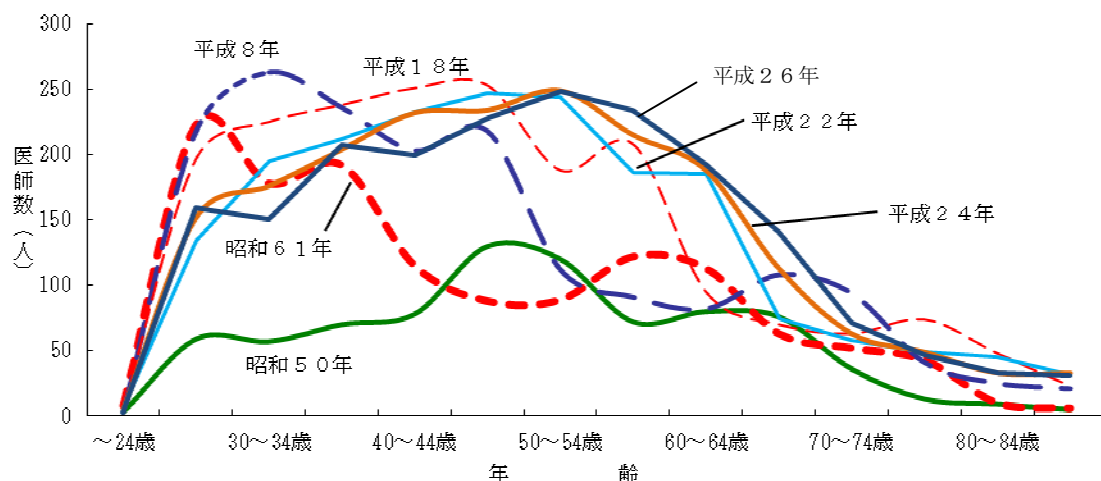


表 4-2 診療科（主たる）名別にみた医療施設従事医師数

主たる診療科名別にみた医療施設従事医師数は、内科が最も多く 415 人で 22.5% を占める。ついで、整形外科が 133 人で 7.2%、小児科が 109 人で 5.9%、精神科が 106 人で 5.7% を占める。平成 24 年と比較すると神経内科や腎臓内科が増加した。一方、最も減少したのは内科で 17 人減、次いで消化器外科（胃腸外科）の 11 人減となっている（表 4-2）。

	平成26年		平成24年		増減数 (人)
	人数	構成割合	人数	構成割合	
医師数	1,848	100.0	1,853	100.0	△ 5
内科	415	22.5	432	23.3	△ 17
呼吸器内科	35	1.9	34	1.8	△ 1
循環器内科	66	3.6	67	3.6	△ 1
消化器内科（胃腸内科）	97	5.2	95	5.1	△ 2
腎臓内科	15	0.8	9	0.5	△ 6
神経内科	45	2.4	38	2.1	△ 7
糖尿病内科（代謝内科）	31	1.7	29	1.6	△ 2
血液内科	20	1.1	19	1.0	△ 1
皮膚科	47	2.5	46	2.5	△ 1
アレルギー科	-	-	-	-	-
リウマチ科	6	0.3	9	0.5	△ 3
感染症内科	1	0.1	1	0.1	△ 0
小児科	109	5.9	105	5.7	△ 4
精神科	106	5.7	105	5.7	△ 1
心療内科	2	0.1	1	0.1	△ 1
外科	81	4.4	84	4.5	△ 3
呼吸器外科	14	0.8	11	0.6	△ 3
心臓血管外科	18	1.0	18	1.0	△ 0
乳腺外科	12	0.6	11	0.6	△ 1
気管食道外科	-	-	-	-	-
消化器外科（胃腸外科）	13	0.7	24	1.3	△ 11
泌尿器科	43	2.3	43	2.3	△ 0
肛門外科	-	-	-	-	-
脳神経外科	35	1.9	34	1.8	△ 1
整形外科	133	7.2	133	7.2	△ 0
形成外科	12	0.6	12	0.6	△ 0
美容外科	2	0.1	1	0.1	△ 1
眼科	66	3.6	66	3.6	△ 0
耳鼻いんこう科	44	2.4	45	2.4	△ 1
小児外科	6	0.3	6	0.3	△ 0
産婦人科	67	3.6	70	3.8	△ 3
産科	-	-	-	-	-
婦人科	8	0.4	8	0.4	△ 0
リハビリテーション科	22	1.2	30	1.6	△ 8
放射線科	42	2.3	44	2.4	△ 2
麻酔科	64	3.5	62	3.3	△ 2
病理診断科	9	0.5	11	0.6	△ 2
臨床検査科	3	0.2	4	0.2	△ 1
救急科	13	0.7	16	0.9	△ 3
臨床研修医	96	5.2	100	5.4	△ 4
全科	1	0.1	3	0.2	△ 2
その他	47	2.5	25	1.3	△ 22
不詳	2	0.1	2	0.1	△ 0

2 歯科医師

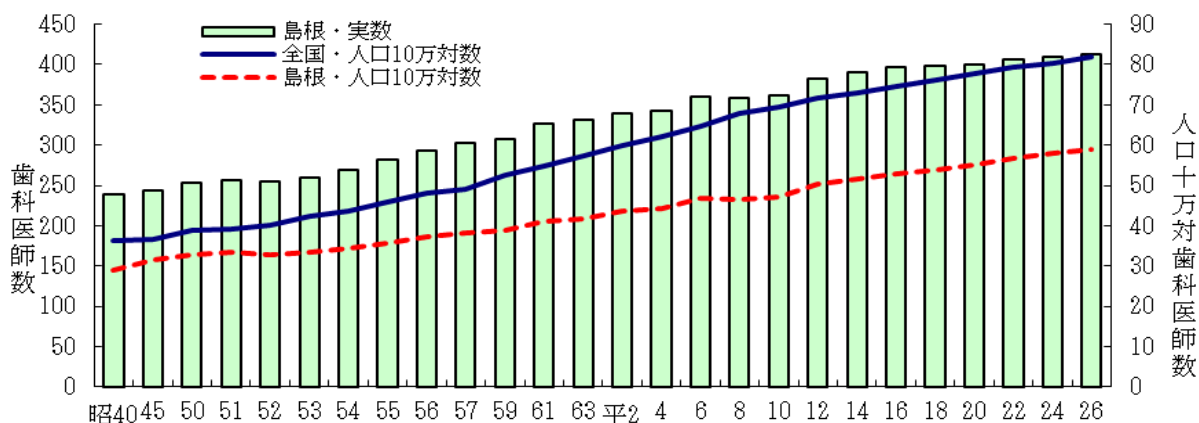
平成26年末現在の届出歯科医師数は412人で、前回調査時の平成24年から3人増加した。業務の種類別にみると、ほとんどが医療施設の従事者で96.1%を占める。うち診療所の開設者又は法人の代表者が61.4%で、診療所の勤務者が26.7%である。平成24年と比べると、病院の従事者は7人減少（構成割合は1.8%下降）、診療所の従事者は5人増加（構成割合は0.6%上昇）した（表4-3）。

表4-3 業務の種類別にみた歯科医師数及び構成割合

	歯科医師数		増減数 (人)	構成割合(%)	
	平成26年	平成24年		平成26年	平成24年
総 数	412	409	3	100.0	100.0
医療施設の従事者	396	398	△ 2	96.1	97.3
病院の従事者	33	40	△ 7	8.0	9.8
病院（医育機関附属の病院を除く）の開設者 又は法人の代表者	-	-	-	-	-
病院（医育機関附属の病院を除く）の勤務者	23	23	0	5.6	5.6
医育機関附属の病院の勤務者	10	17	△ 7	2.4	4.2
臨床系の教官又は教員	4	4	0	1.0	1.0
臨床系の教官又は教員以外の従事者（大学院生含む）	6	13	△ 7	1.5	3.2
診療所の従事者	363	358	5	88.1	87.5
診療所の開設者又は法人の代表者	253	251	2	61.4	61.4
診療所の勤務者	110	107	3	26.7	26.2
老人保健施設の従事者	-	-	-	-	-
医療施設・老人保健施設以外の従事者	3	4	△ 1	0.7	1.0
医育機関の臨床系以外の勤務者（大学院生含む）	1	1	-	0.2	0.2
医育機関以外の教育機関又は研究機関の勤務者	-	1	△ 1	-	0.2
行政機関又は保健衛生施設の従事者	2	2	0	0.5	0.5
行政機関の従事者	2	2	0	0.5	0.5
行政機関を除く保健衛生施設の従事者	-	-	-	-	-
その他の者	13	7	6	3.2	1.7
その他の業務の従事者	-	1	△ 1	-	0.2
無職の者	13	6	7	3.2	1.5
不詳	-	-	-	-	-

平成26年の人口10万対歯科医師数は59.1人で平成22年の57.9人に比べて1.2人増加した。年次推移をみると、緩やかな増加傾向にあるものの、全国平均に比べてかなり低くなっており、平成26年は全都道府県中第43位であった（図4-4）。

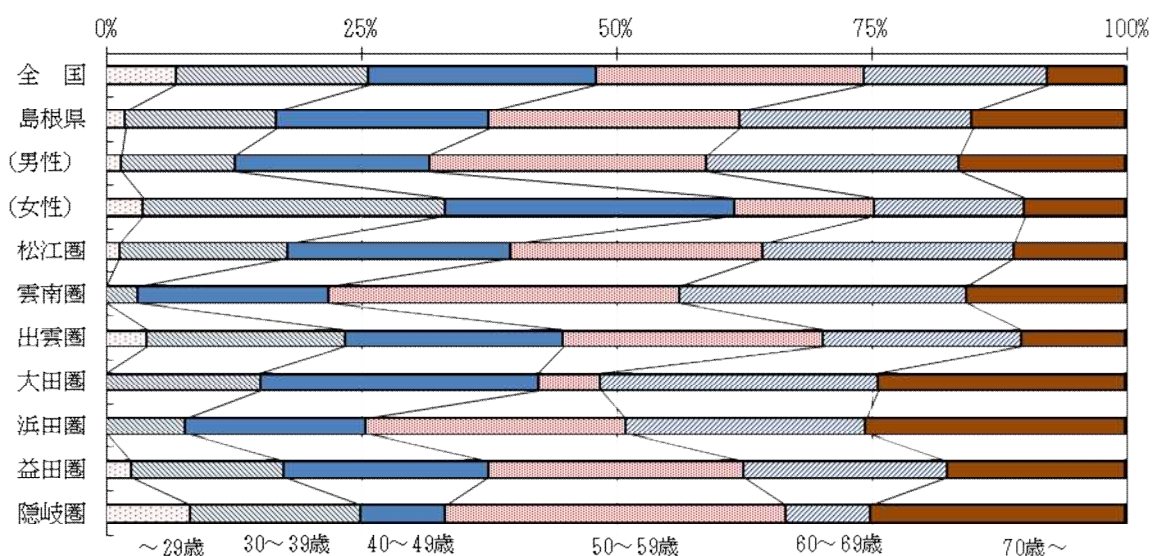
図 4-4 歯科医師数及び人口 10 万対歯科医師数の年次推移



歯科医師の年齢別割合をみると、全国に比べて 20 歳～40 歳代の占める割合が低く、50 歳以上の占める割合が高くなっている。男女別に比べると、女性は 20 歳～40 歳代が 61.7% を占めており、男性は 50 歳以上が 68.3%を占めている。

2次医療圏別にみると、雲南圏、大田圏、浜田圏では 60 歳以上が 4 割を超えている。(図 4-5)。

図 4-5 歯科医師の年齢別割合



3 薬剤師

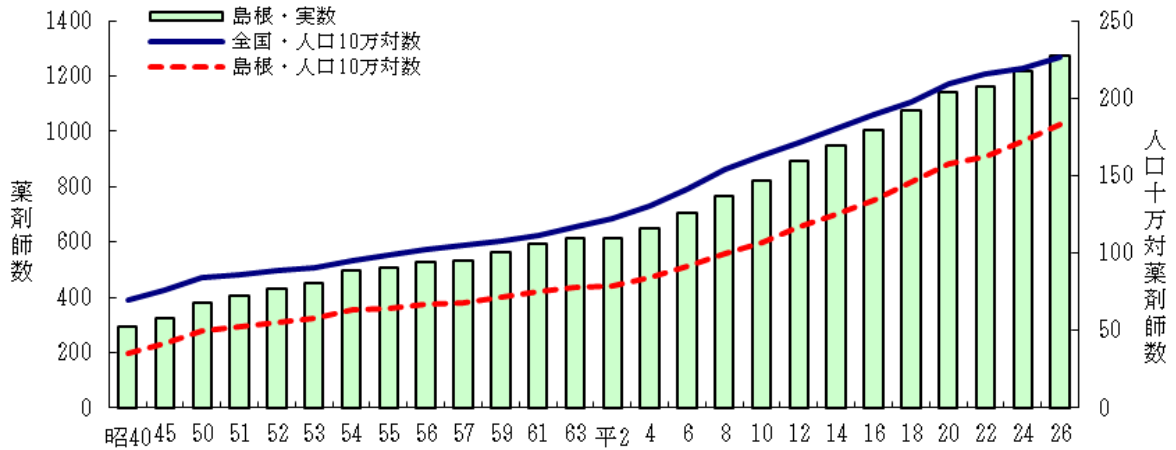
平成 26 年末現在の届出薬剤師数は 1,275 人であり、平成 24 年から 56 人増加した。業務の種類別にみると、薬局の従事者 769 人（構成割合は 60.3%）で、平成 24 年から 66 人増加した。ついで、病院・診療所の従事者が 318 人（構成割合は 24.9%）となっており、平成 24 年から 5 人増加している。薬局及び病院・診療所の従事者は全体の 85.2%を占めた（表 4-4）。

表 4-4 業務の種類別にみた薬剤師数及び構成割合

	薬剤師数		増減数 (人)	構成割合(%)	
	平成26年	平成24年		平成26年	平成24年
総 数	1,275	1,219	56	100.0	100.0
薬局の従事者	769	703	66	60.3	57.7
薬局の開設者又は法人の代表者	111	107	4	8.7	8.8
薬局の勤務者	658	596	62	51.6	48.9
病院・診療所の従事者	318	313	5	24.9	25.7
病院・診療所で調剤・病棟業務に従事する者	309	303	6	24.2	24.9
病院・診療所で検査業務に従事する者	-	-	-	-	-
病院・診療所でその他の業務に従事する者	9	10	△ 1	0.7	0.8
大学の従事者	10	10	0	0.8	0.8
大学の勤務者（研究・教育）	10	10	0	0.8	0.8
大学院生又は研究生	-	-	-	-	-
医薬品関係企業の従事者	87	101	△ 14	6.8	8.3
医薬品製造業・輸入販売業（研究・開発・その他に従事する者）	29	27	2	2.3	2.2
医薬品販売業（旧薬種商を含む）に従事する者	58	74	△ 16	4.5	6.1
衛生行政機関又は保健衛生施設の従事者	21	18	3	1.6	1.5
その他の者	70	74	△ 4	5.5	6.1
その他の業務の従事者	21	23	△ 2	1.6	1.9
無職の者	49	51	△ 2	3.8	4.2
不 詳	-	-	-	-	-

平成 26 年の人口 10 万対薬剤師数は 182.9 人で、平成 24 年から 10.5 人増加した。年次推移をみると年々上昇しているが、全国平均と比べてかなり低くなっており、平成 26 年は全都道府県中第 38 位であった（図 4-6）。

図4-6 人口10万対薬剤師数の年次推移



薬剤師の年齢別割合をみると、最も多いのは30歳～39歳で28.5%、ついで50歳～59歳の18.9%、40歳～49歳が16.5%となっている。

2次医療圏別にみると、出雲圏は20歳～30歳代で50.0%を占めており、隠岐圏では60歳以上の占める割合が47.8%となっている（図4-7）。

図4-7 薬剤師の年齢別割合

